

にかほ市と仁賀保高校

■若者たちによる未来提言

2月3日、にかほ市にて、「水循環都市としてにかほ市が飛躍するために何が必要か」をテーマに、「若者がミズから描く未来討論会」が開催されました。

当日は、秋田大学、秋田高専、中央大学、専修大学の大学生チームの他に、唯一の高校生チームとして元の仁賀保高校生徒会が参加しました。数カ月にもわたる調査・研究により積み重ねられた提案や意見は、いずれもレベルが高く、すぐにでも施策に反映できるくらいのものでした。その中でも仁賀保高校の発表については、観衆から「仁賀保高校アツパレ！」という声のでるほど優れたものだったと思います。

■地方創生と高校生

現在、高校生と地域との新たな関係づくりが求められています。このことは、平成30年6月に政府が閣議で示した創生基本方針2018の中に、地方創生のけん引役としての高校生の役割を随所に明示したことからわかります。

去る1月15日、市は仁賀保高校と連携協定を締結しました。それは、柔軟な発想を持つ高校生に、地域の一員として、まちづくりに積極的に

参加してもらいながら、地域課題の解決に取り組んでもらおうと考えたからです。

もっとも、これまでも仁高生の皆さんからは、情報メディア科の生徒による各種ポスター制作、学校全体によるトライアスロン支援など、実にさまざまな場面で市内行事や活動に参加してもらってきました。

今回の協定締結は、これまでの仁高生による活動をオフィシャルなものにするためのものでもあります。そして、市は彼らの活動に相応の支援をしていくこととなります。

■仁賀保高校の価値

県立仁賀保高等学校は、市内唯一の高校であり、市にとって不可欠な存在です。その意味では、他の県立高校とはまた別の意味合いがあると言えます。

県は、平成28年度に策定した「第7次秋田県高等学校総合整備計画」の中で、由利本荘にかほ地区について、「西目高校、仁賀保高校および由利工業高校を視野に入れて、(中略)関係者との調整を図りながら統合の検討を行う」としています。にかほ市にとっては大変深刻な話です。

確かに、人口減少地域では、高校

生の数の減少による定員数の確保は重要な課題です。しかしながら、合理化だけで高校をなくすべきではありません。高校を失った地域の人口流失の実態から見ても、仁賀保高校の存続は市の存亡に係わる重大な問題なのです。

では、市は何をすべきか？

確かに、市はこれまでも二度にわたり県当局および関係機関に存続の要望をしてきました。私は、さらに踏み込んで、存続に向けた強い意思表示が必要と考えました。それが今回の連携協定締結のもう一つの背景です。

この連携協定には、まちづくりに向けた具体的な事業案が多数盛り込まれています。それら事業を実施するには、市民の皆さんの理解と協力が必要です。仁高生の皆さんと市民が一丸となってまちづくりに取り組んだとき、仁賀保高校の存在価値もさらに高まっていくと私は強く信じています。



にかほ市長
市川雄次

